

# 第二言語習得のためのコミュニケーション活動における第一言語の使用について

小泉ユサ

第二言語習得論において、学習者同士が対象言語を用いて対話することは、重要な学習プロセスの一つと位置付けられている。interactionist approachの立場から見ると、対話中に何らかの言語的問題により意思疎通が滞り、その修復を図って意味の交渉 (negotiation of meaning) を行うとき、学習者は原因となった問題に気づき、相手からのフィードバックを受けて自らの発話を修正し、それにより言語習得が促される。社会文化理論 (sociocultural theory) から見ると、学習者が対話をしながら共に課題に取り組む中で、互いの弱い部分を支え合うcollective scaffoldingが起り、単独では達成し得なかった課題を達成できるようになる。こうした考え方は、Communicative Language TeachingやTask-Based Language Teachingなど、言語教育の現場で広く用いられているコミュニケーション主体の教授法の基盤をなすものである。

これらの教授法において、教室は対象言語を使用して学習者が対話をする場であり、そこに第一言語を介在させることは、対話の、ひいては対象言語習得の妨げになると理解されてきた。しかし近年、interactionist approach、sociocultural theory双方の立場から、こうした否定的な見方を修正する動きが出てきている。前者からは、第一言語は学習者の注意を対象言語の形式に向けさせ、意味交渉による言語的問題の解決を助け、結果として第二言語の習得を促進するという見方が示され (Storch & Aldosari, 2010; Storch & Wigglesworth, 2003; Swain & Lapkin, 2000)、後者からは、第二言語習得を目的とした課題においても、学習の契機となる対話とcollective scaffoldingの手段としては、第一言語も第二言語と同等の価値があるという見方が示されている (Alegria de la Colina & García Mayo, 2009; Anton & Dicamilla, 1999; Cook, 2001; Storch, 2013)。

このテーマに関する先行研究でしばしば用いられる手法は、協働ライティングなど、対話をしながら第二言語の産出物を作り出す活動を学習者に行わせ、その対話の中での第一言語使用を分析するというものである。この手法による研究からは、次のようなことがわかっている。

- 第一言語は、課題を理解する、アイデアを創出する、言語の形式に関わる問題を解決する、作業の進行管理をする、相手と良好な関係を築くといった目的のために使用される (Alegria de la Colina & García Mayo, 2009; Azkarai & García Mayo, 2015; Storch & Aldosari, 2010; Swain & Lapkin, 2000)。
- collective scaffoldingは第一言語の主要な機能である。学習者は、第一言語を用いて、作業中に発生した問題に互いの意識を向けさせ、互いの知識やスキルを持ちより、協力して解決にあたる。とりわけ、複雑な構文や語彙の問題に対処する際に、第一言語に切り替える傾向がある (Anton & Dicamilla, 1999)。
- 第一言語の使用を許された学習者ペアの対話は、そうでないペアの対話に比べ、より連続的で、学習者同士の協力がより顕著に見られ、対象言語の形式について話し合う際にメタ言語がより頻繁に使用される (Scott & de la Fuente, 2008)。

- 第一言語の使用量は、課題のタイプや学習者の習熟度により異なる (Alegria de la Colina & García Mayo, 2009; Azkarai & García Mayo, 2015; Storch & Aldosari, 2010; Swain & Lapkin, 2000)。
- 第一言語の使用量は、産出物の質と相関性がある (Swain & Lapkin, 2000)。

この研究テーマは、大多数の学習者が共通の第一言語を持ち、それが教室外の主たる意思疎通の手段であるという環境で、とりわけ重要である。日本の英語教育を例にとれば、一方で、教室は英語でのコミュニケーションを体験できる貴重な場であり、日本語の使用は極力排除すべきという議論が成り立つが、他方、文法、語彙、読解に重きが置かれ、これらを効率よく教える手段として、教員が日本語で文法を説明し、英文を日本語に訳して理解を図るスタイルの授業が広く行われている。その結果、学習者も日本語を介して語彙や構文の知識を身につける。こうしたことを踏まえると、英語によるコミュニケーションを主たる目的とする授業活動であっても、言語の形式や正確さを重視する場面では、部分的に日本語を使用させた方が、学習者の語彙や構文の知識をより効果的に運用させられる可能性がある。また、英語で表現するための準備の段階で適切に日本語を使用させれば、学習者は広範な知識を活用することができ、より内容の濃い産出物を生み出せる可能性がある。

前述した先行研究の大半は、英語圏での第二言語イマージョン教育や外国語教育、欧州の非英語圏での英語教育の場で行われたもので、そこから導き出された結論がそのまま日本の学習者にあてはまるとは言いがたい。本研究は、日本の英語教育にとって重要なこのテーマを、日本の学習者から収集したデータに基づいて探求するものである。具体的には、日本語を第一言語とする学習者ペアに協働ライティング活動に取り組みせ、作業中の日本語の使用について、以下の3点に焦点を当てて調べる。

1. 作業の諸段階（準備、ライティング、見直し・修正）における機能
2. 産出物である英作文の質（内容、言語使用の正確さ・複雑さ・流暢さ）への影響
3. 日本語使用についての学習者の意識

現行の中学校学習指導要領（平成29年告示）は、英語の指導計画の作成に当たっては、「授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする」と定める。しかし、それをどう実現するか、具体的な指針は示されていない。こうした中、英語によるコミュニケーション活動を妨げるのではなく、促進するような日本語使用とはどのようなものかという問いへの答が求められている。本研究は、この問いへの答を探り、日本で英語教育に携わる教員への一助となることを目指すものである。

## 【引用文献】

- Alegria de la Colina, A., & García Mayo, M. d. P. (2009). Oral interaction in task-based EFL learning: The use of the L1 as a cognitive tool. *International Review of Applied Linguistics in Language Teaching*, 47(3-4), 325-345. <https://doi.org/10.1515/iral.2009.014>
- Anton, M., & Dicomilla, F. J. (1999). Socio-cognitive functions of L1 collaborative interaction in the L2 classroom. *The Modern Language Journal*, 83(2), 233-247. <https://doi.org/10.1111/0026-7902.00018>
- Azkarai, A., & García Mayo, M. d. P. (2015). Task-modality and L1 use in EFL oral interaction. *Language Teaching Research*, 19(5), 550-571. <https://doi.org/10.1177/1362168814541717>
- Cook, V. (2001). Using the first language in the classroom. *The Canadian Modern Language Review*, 57(3), 402-423. <https://doi.org/10.3138/cmlr.57.3.402>
- Scott, V. M., & de la Fuente, M. J. (2008). What's the problem? L2 learners' use of the L1 during consciousness-raising, form-focused tasks. *The Modern Language Journal*, 92(1), 100-113. <https://doi.org/10.1111/j.1540-4781.2008.00689.x>
- Storch, N. (2013). *Collaborative writing in L2 classrooms*. Bristol: Multilingual Matters.
- Storch, N., & Aldosari, A. (2010). Learners' use of first language (Arabic) in pair work in an EFL class. *Language Teaching Research*, 14, 355-375. <https://doi.org/10.1177/1362168810375362>
- Storch, N., & Wigglesworth, G. (2003). Is there a role for the use of the L1 in an L2 setting? *TESOL Quarterly*, 37(4), 760-770. <https://doi.org/10.2307/3588224>
- Swain, M., & Lapkin, S. (2000). Task-based second language learning: The uses of the first language. *Language Teaching Research*, 4(3), 251-274. <https://doi.org/10.1177/136216880000400304>